

単純 CT で乳癌を見つける。～乳腺外科医による CT チェックの有用性について～

野村寛徳¹⁾、佐藤功²⁾、田畑智丈²⁾、水谷真²⁾、田儀知之²⁾、松本直基²⁾、
 嵩岡成佳²⁾、大江崇史²⁾、増怜渚萌²⁾
 (第一東和会病院 乳腺外科¹⁾、第一東和会病院 内視鏡外科²⁾)

当院は総合病院であり毎日多くの患者が受診され、院内にある 2 台の CT はほぼフル稼働で撮影を行っている。今回乳腺外科の新たな取り組みとして、乳腺の写っている CT 画像を全てチェックし乳腺に微細な異常が無いかを探してみた。

【方法】前日撮影された CT で乳腺が撮影範囲に入っている、頸部・胸部・腹部 CT を女性のみ抽出して確認した。検討期間 2025.7～2026.3。

【結果①】要する時間は毎日 15 分～20 分程、15～25 人程確認した。その中で放射線科読影医による指摘も含め、何らかの異常を指摘出来た症例は主治医を通して乳腺外来に繋げ、精査行い 22 人の乳癌を診断した。これはこの期間の当院新規乳癌症例の約半数であった。これら 22 人は全て乳腺に異常を自覚しておらず、2 年以内に乳癌検診を受けていた症例は 1 例のみであった。診断された最小の乳癌は 3mm であった。22 人のうち 12 人は放射線科読影医の指摘はなかった。

【結果②】造影 CT にて乳癌を見つけることは容易と言える。ただし単純 CT ではその難易度は高い。その中でいくつかコツがつかめたので報告する。

①腫瘍；単純 CT でも腫瘍の同定は比較的可能である。特に乳癌は CT 値がやや高く（やや白く見える）写る。ただし若年症例や dense breast の症例では難しい。腫瘍はその内部に脂肪を含まないということを入れておくと探しやすくなる。

②構築の乱れ；各スライスを連続して動画の様に見ていくと一瞬の違和感が出ることもある。特に乳腺の厚みが急に薄くなる、1 点に集中するような索状影、左右差があるといった所見に注意する。

③過去画像との比較；上記①②で所見を認めた場合、過去画像と比較することでより所見に現実味が増す。

【考察】撮影範囲を網羅的にチェックする放射線科読影医の業務は多大であることに比べ、乳腺のみチェックする今回の取り組みは日々それほどの労力は要しない。それでも一定数の乳癌の発見に到ったことは早期発見という意味では重要と考える。また近年の傾向として読影見逃しの報道も散見されることからダブルチェックという意味も大きいと考える。本報告では実際の単純 CT 画像を提示しつつ乳腺外科医が慣れた目で CT を確認することの有用性を考えてみたい。